

News release

相互保険の復活？スイス・リーのシグマ調査による分析

- 世界の保険料に占める相互保険会社のシェアが近年伸び、ここ数十年続いた減少傾向が反転
- 新しいリスクベースの自己資本規制やコーポレートガバナンス基準の厳格化が一部の相互保険会社の課題に
- 新たな種類の資本調達手段、テイラーメイド型再保険および代替的リスク移転ソリューションの利用を拡大することで、相互保険会社の財務の柔軟性が向上
- 相互保険会社がデジタル時代に繁栄するためには、各社の引受・販売慣行のアップグレードが必要
- 相互保険会社の契約者向け長期的サービスの向上と、いくつかのリスクについて保険付保を維持するためにデジタル技術は有用

チューリッヒ、2016年8月2日 – スイス・リー・グループ(以下、スイス・リー)の最新のシグマ調査『21世紀の相互保険:バック・トゥー・ザ・フューチャー?』によると、近年になり相互保険セクターが緩やかな回復を見せていることが分かりました。保険市場全体に占める相互保険会社のシェアは、元受保険料収入で見ると2007年の24%から2014年には26%超にまで増えており、それまで数十年間の減少傾向から若干転じています。しかし、このセグメントには課題もあります。例えば、リスクベースの新しい自己資本規制やより厳格なコーポレートガバナンスの整備などは、一部の相互保険会社を競走上不利な立場に陥れかねません。さらに、相互保険会社は技術の創造的破壊にも対応しなければなりません。スマートアナリティクスやソーシャルメディアなどのデジタル技術の活用は、相互保険会社が所有者兼社員でもある保険契約者の利益を拡大するのに役立ち、一方でその出資構成は、いくつかの個人やリスク向けの相互保険を手頃な値段に抑えることを可能にすると思われます。

相互保険会社の最大の目的は、株式会社型の保険会社のように利益を上げたり外部株主に還元したりするというよりは、むしろ所有者兼社員である保険契約者をリスクから守るための保障を提供することです。相互保険会社が引き受けた保険料の累計はここ何年かにわたり他の保険市場を上回っており、このアウトパフォーマンスの時期は2008年から2009年にかけての金融危機のピーク時に集中しています。

スイス・リーのチーフ・エコノミストであるカート・カールは次のように述べています。「金融危機後に経済成長が回復してからも相対的に相互会社の保険料収入の動向が反転しなかったことは、このセグメントに一定の回復力があつたことを示唆しています。近年、相互保険会社グループの中には国際的

Media Relations, Zurich
Telephone +41 43 285 7171

Darren Pain, Zurich
Telephone +41 43 285 2504

Kulli Tamm, Armonk
Telephone +1 914 828 6504

Irina Fan, Hong Kong
Telephone +852 2582 5693

Swiss Re Ltd
Mythenquai 50/60
P.O.Box
CH-8022 Zurich

Telephone +41 43 285 2121
Fax +41 43 285 2999

www.swissre.com
 @SwissRe

に伸びているところもあり、新しい相互保険会社も数々の市場で登場しています。これも同セグメントにあらためて人気が集まっていることの表れです。」

ところが、相互会社が2007年以降世界の保険市場の中でシェアを緩やかに伸ばしてきているとは言え、過去の最高水準をはるかに下回っています。生命保険セクターを例に挙げると、2014年の世界の生命保険相互会社の保険料シェアは23%で、これは相互会社の株式会社化の波が多くの国に押し寄せる前の1980年代後半から1990年代前半にかけての水準である約66%を大きく下回ります。

新たな課題

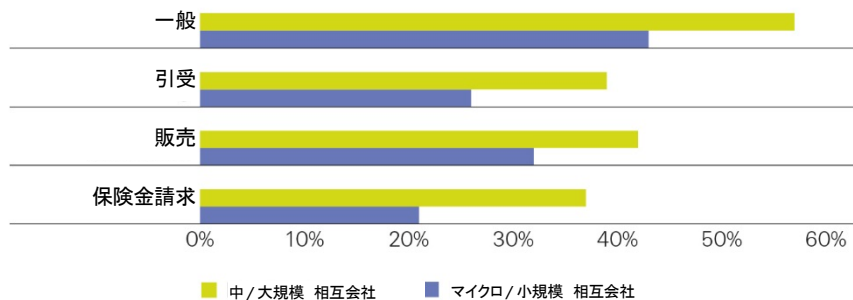
保険相互会社は数々の課題に直面しています。最も明白なものはリスクベースの新しい自己資本規制とより厳格なコーポレートガバナンスの整備に関連するもので、いずれも政府と規制当局が個々の保険会社の耐性強化と過剰なリスク負担の抑制を目指して導入したものです。これらの規制は、特に地域や保険種目を狭く絞っている小規模な会社など、一部の保険相互会社を競走上不利な立場に陥れかねません。大規模な保険会社や十分に多角化の進んだ保険会社であれば、コンプライアンスに関連する付帯業務や資金調達にかかるコストにも応じることができる強い体力を持っています。

規制当局は自らが策定した新ルールから意図しない結果が出てくる可能性を警戒しているようで、新たな健全性(すなわち資本)とガバナンスの体制の施行にあたり、比例原則(プロポーションリティ)を強調しています。また、相互会社が利用可能な資本ソリューションの幅にも新たに焦点が当てられています。例えば、フランスの「certificat mutualiste」(共済組合債権証券)など、株式型の資本証券の発行が認められている法制度も一部の国で見られます。テイラーメイド型の再保険ソリューションや保険リンク証券などの代替的なリスク移転の仕組みと共に、これは相互保険会社の財務的柔軟性を拡大し、事業の成長性や他のタイプの保険会社に対する競争力アップにつながります。

デジタル技術の取り込み

デジタル技術は保険の設計、料率設定、販売の仕方を変え、すべての保険会社が参入する市場勢力図を根本から構成しなおしています。保険相互会社がデジタル時代でも存在意義を保つためには、引受・販売慣行の時代への適合とアップグレードが必要です。多くの保険相互会社がこのような変化を前向きに受け入れている兆候はあるものの、一部は遅れをとっているところもあります。

図表 1: 会社規模別の保険相互会社の技術導入実態



注: データは、5つの地理的区域(アジア、欧州、オセアニア、北米、南米・カリブ海地域)の相互保険210社のウェブサイトから収集しています。百分率は、調査対象企業を規模別(零細/小規模および中/大規模)にグループ分けし、カテゴリ内で特定のオンライン機能をすべて提供している企業の割合を表しています。各社について、次の機能を調査しました。(1) 一般: 会社がウェブを利用しており、自社の年次報告書をオンラインで公表したり、意見交換や投票を行ったりするためのオンラインプラットフォームを持っている。(2) 引受: オンラインでカスタマイズ見積りが可能。(3) 販売: オンラインの商品説明・料率表、ライブチャット機能、稼働中のソーシャルメディアアカウント、ウェブベースの保険購入オプション・加入申請、モバイルアプリケーションがあること。(4) 保険金請求: 加入者専用プラットフォーム、オンライン請求明細の存在。

出所: スイス再保険会社経済調査・コンサルティング部。2016年2月に相互保険各社ウェブサイトから収集した情報に基づく。

例えば規模の小さい保険相互会社では、業務慣行の中にオンライン機能がまだ完全に導入されていません。これはもしかしたら、従来の代理店やブローカーによる販売に対するこだわりが大きい実態を反映しているのかもしれない。遅れをとっている会社は、新技術を利用する態勢がより整った市場参加者に負けるリスクを抱えています。これは、ピアツーピア(P2P)の保険プラットフォームがますます発達してきている現在では特に頷けます。P2Pのプラットフォームでも、アフィニティ(提携)ベースの保険相互会社とほぼ同様に各個人間でのリスクシェアが可能だからです。

相互会社は新技術を活用することで近年の再興を足掛かりに成長を続け、これが新しい相互扶助の時代の幕開けとなる可能性があります。お客様のニーズや嗜好の理解を深める目的でのソーシャルメディアやスマートアナリティクスの活用は、外部株主ではなく、所有者兼社員である保険契約者の長期的ニーズに応えるという根底にある目的を考えた場合、相互保険会社にとっては自然な流れであると思われます。さらに、技術主導で完全なリスクベースの価格設定に向かう動きが、従来の保険の価格を一部の人々の手の届かないものにしてしまう可能性もあります。外部株主への還元という余計な心配のない相互会社は、保険料を手頃な水準に保ち、一定のリスクも保障できるようにするという大切な役割を果たすことが可能です。

スイス・リーについて

スイス・リー・グループは、再保険、保険、その他保険ベースのリスク移転で世界をリードする大手再保険会社です。直接、またはブローカーを通して、世界中の保険会社、中規模企業から大企業、公共部門のお客様にサービスを提供しています。あらゆる保険種目の標準商品からテイラーメイドの商品までを携え、スイス・リーは、その資本基盤と、事業や発展に付随するリスクを負うことを可能にするための専門知識と革新力を展開しています。1863年にスイスのチューリッヒで創業されたスイス・リーは、世界約70カ所で事業拠点を展開しています。スタンダード&プアーズから「AA-」、ムーディーズから「Aa3」、A.M. Best から「A+」の格付けを取得しています。スイス・リー・グループの持株会社である Swiss Re Ltd の登録株式は、スイス証券取引所のメインスタンダードに準拠して上場しており、ティッカーシンボル SREN で取引されています。スイス・リー・グループに関する詳細は、ウェブサイト(www.swissre.com)をご覧ください。また、Twitter で(@SwissRe)をフォローしていただきますようお願い致します。